

第28回全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会

蹴武型・団体戦（選抜・推薦7チーム）見所

蹴武の型は日本跆拳道の魂である。

日本跆拳道の魂を3名で演武する団体戦は、クラブが望ましい発展を遂げているか否かのバロメーターになっている。出場することそれ自体に意義がある種目と言える。

本大会蹴武の型団体戦の本命は、蹴美杯（J T A団体対抗戦団体型）で圧勝した福岡筑紫野テコンドークラブである。昨年度、全日本大会でのメンバーは福島良菜のみ。少年少女部出身の新メンバー、斉藤未有と和田桐佳とで連覇を狙う。仕上がり状況も順調で、平常心で臨めば優勝するだろう。

女子のみのチーム、とりわけ女子高校生チームの華やかさが大いに期待できる。



中央 福岡筑紫野TC（福島良菜、斉藤未有、和田桐佳）

斉藤未有コメント「練習してきた成果を出し切って、団体と個人型の両方で、前回の自分から成長した型をしたいと思います」

追撃しているのが、蹴美杯準優勝の東京城南雑色テコンドークラブ（上写真右、高橋英秀、武田龍倭、中道孝汰）と全日本大学大会の覇者・岡山大学体育会テコンドー部（下写真左、森啓史朗、栗田花梨、高橋範匡）である。東京城南雑色TCメンバーも、福岡筑紫野TC同様、小学生低学年から入門した生え抜きの蹴士である。中1及び小5のメンバーによるフレッシュな演武に期待したい。



中道孝汰 コメント「練習してきたことをすべて出し切って、優勝目指してがんばります」

森 啓史朗 コメント「初の全日本大会出場で緊張しますが、今までの練習の成果を存分に発揮できるようにがんばります」

第28回全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会唯一の団体戦は、3名全員の精神的安定と調和のとれた演武が勝利への絶対条件となる。一人の些細なミスで優勝候補が敗退することもある。

ゆえに、他のチームにも、十分チャンスがある。

メンバーそれぞれが己に負けないで、ベストの演武を完遂することに集中して欲しい。